

様式(細則 5-1)

令和 40年 10月 12日

浜田市議会議長

池田 真 様

議員名 牛 尾 昭

調査研究活動申請書

下記のとおり調査研究のため、研修を受けたいので申請します。

記

1. 研修先

スマート・シティ-IL 協会

2. 目的・研修事項 (市政との関連、研修名など)

バリエーション多様な都市・直営の地域循環型学習

3. 期 間 令和 40年 10月 10日 ~ 令和 年 月 日

4. 行 程

オニオン



研修先：スマート・テロワール協会

目的：「木を使い切る町」から始まった木材産業の大変革～
バイオマス産業杜市・真庭の地域循環に学ぶ

期間：10月10日、オンライン

司会・進行：藻谷浩介（日本総研主席研究員）

講師：坂本規（銘建工業バイオマス事業部長）

講師：石井裕隆（岡山県真庭市産業観光部産業政策統括監兼
林業・バイオマス産業課長―農林省出向）

要旨：真庭市は、里山資本主義で紹介された「循環再生」の
先端を走る町で、蒜山高原や湯原温泉など観光地もありますが、
木材産業の集積が大きな特徴です。木を育てて切る林業
があり、加工する製材所が多数立地し、木くずを燃やすバイ
オマス発電で、市内の民生需要に匹敵する電力を自給してい
ます。発電の利益を、林業に再投資するしくみも持っていま
す。世界的な木材不足、燃料高騰、CO₂削減の流れの中で、
真庭市の未来はどんどん拡大しています。厳しく競争しつつ、
共同事業も行う木材産業。リーダー格の集成材メーカーが銘
建工業です。軽くて煙の出ない木質燃料の、ペレットを生産

する国内最大手でもあります。同社の手掛けるCLTは、鉄筋に変わって高層ビルの構造材にもなる、21世紀の木質建材。バイオマス発電の分野でも、30年以上の歴史を持つ、日本を変える/変えてきた会社です。そのような会社の集まる真庭では、市役所も「バイオマス産業都市」を掲げています。木材、エネルギー、農業やごみなどの分野でも、総合的な循環再生に取り組んでいます。

考察、坂本氏によると、木材は50年を過ぎると、CO₂の吸収率が下がるので伐採して、次の植林事業にかかる必要がある。広葉樹は、15年サイクルで伐採してチップにする。伐採したあとは、15年すると復元する。従って植林の必要はない。雑木は、軽トラック一杯にすると、チップ工場に持ち込むと4,5千円になり飲み代になる。—普通はゴミ処理場に持ち込むと、処分代がかかる。農水省出身の石井氏は、よく耕作放棄地の問題が取り上げられるが、担い手不足が根本原因である。雑木でも植えたほうが、利益に繋がる。ただ、農業と林業の連携・すみわけが必要である。当市も笠松の森が伐採時期を迎えており判断が迫られる。以上、牛尾昭。